



平成二十九年度 定期総会開催

二松學舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊
平成29年7月31日発行
(第97号)

二松學舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松學舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞広堂吉先生書

平成二十九年五月二十七日(土)午後一時三十分、九段一
号館中洲記念講堂において、平
成二十九年度二松學舎大学父母
会定期総会が開催された。
総会に先立ち、学校法人二松
學舎常任理事西畑一哉先生、文
学部国文学科教授瀧田浩先生に
よる「漱石アンドロイド」プ
ロジェクト「研究の目的と創作
過程」と題した講演会が行わ
れた。
午後二時四十分、安達香里氏
の司会により総会が開会され、
渡邊勝文父母会長、菅原淳子学
長がそれぞれ挨拶をした後、宮
脇正裕議長により議事に入った。
第一号議案の平成二十八年度

事業報告並びに決算については、審
議の結果、原案どおり承認された。
第二号議案の平成二十九年度役員
選出は、会長に南條麻里氏、続いて
会計監査に久田恵美氏と白根真弓氏
が決定した。

第三号議案の平成二十九年度事業
計画並びに予算が審議され、それぞ
れ原案どおり承認された。

議事終了後、平成二十八年度で役
員を退任した渡邊勝文氏、田沼好志
枝氏、三原由美子氏、田中幸子氏の
四名に菅原学長から感謝状と記念品
が贈呈され、総会は終了した。

午後三時四十分から、会場を九段
一号館十三階のラウンジに移し、父
母と教職員の懇親会が開催された。





※父母会活動

「全学生を我が子と思い」

父母会会長 南條麻里

会員の皆様、日頃より父母会活動へご理解とご協力を賜りありがとうございます。

新入生のご家族の皆様、父母会へのご入会を心から歓迎いたします。

過日の定期総会にて、新役員・予算・事業のご承認をいただきまして、平成二十九年度の活動がスタートいたしました。

本会は二十四年目を迎えました。諸先輩方の築いてこられた組織の理念「学生の為に」「大学と密に連絡を取り合い」「会員同士の親睦を深め」を継承しつつ、時代や学生達のニーズに合わせ事業内容を検討しながら運営してまいります。

会員相互の親睦を図るべく、総会後に親睦会を開催しました。恒例の地区別父母懇談会は、地方出身学生が減ってきて開催が危ぶまれる地区もございますが、札幌を皮切りに順次開催させていただいております。創縁祭の喫茶室では美味しいお菓子を用意してお待ち

しております。

学生達への身近な支援といたしましては資格取得者への奨学金や、課外活動への顕彰、外国人留学生への支援・交流などがあります。卒業パーティーの開催も例年通り行います。一〇〇円朝食も本格的にスタートしました。

今年度は二松學舎大学創立一四〇周年の記念の年です。節目の年に在学できた事を嬉しく思います。大学へお祝いの気持ちを形にして贈らせていただきます。

時として学生達を取り巻く環境は大きく変化します。縁あって二松學舎大学の学生となった彼らが憂いなく勉学に励めるよう、恙なく学生生活を送れるよう、サポートする事も父母会の務めと考えています。学生達の認知度は低いようですが、頼りにして欲しいと思います。役員一同、学生と大学の応援団として、全学生をみんな我が子と思う様な気持ちで、活動してまいります。一年間よろしくお願いたします。

※新役員紹介 ◆◆◆ 役員に就任して

◆ 加藤 典子

はじめまして。この度、父母会役員を務めさせていただくことになりました。加藤と申します。

伝統ある二松學舎大学は、創立一四〇周年を迎え、新たな文学研究、人間研究の一環として漱石アンドロイドが誕生しました。

温故知新の魅力溢れる二松學舎大学で学ぶ息子を見守る親として、微力ですが、本学の発展と学生の皆さんを応援する父母会活動に貢献したいと思っております。

どうぞよろしくお願いたします。

◆ 小柴 有佳

本年度、父母会役員を務めさせていただきますことになりました。

二松學舎大学が創立一四〇周年を迎えるこの年に、父母会役員として携わることができ、大変光栄に感じております。

入学した娘は学生会執行部として活動を始めました。今まで生徒会の様な活動には縁がなかったので驚きましたが、とても嬉しく思います。私も微力ながら父母会活動に貢献して参ります。宜しくお願いたします。

◆ 新郷 尚美

本年度、父母会役員を務めさせていただきますことになりました。

四月に子どもが入学し、新たな学生生活も順調な様子に安心し、大変有難

く思っております。

今回、自分が役員になるとは全く想像しておりませんでした。懇親会で、先生方、役員の方々と恐れ多くもお話しをさせて頂き、気さくな雰囲気、私も一緒にお手伝いをさせて頂こうと思えました。

どうぞ宜しくお願致します。

◆ 由川 志織

この度、父母会役員を務めさせていただきますことになりました。

大学にも役員活動があるのかと少し驚きましたが、先日の総会に出席した際に、大学や学生への支援を中心とした活動内容を聞き、微力ではありますが何か役に立てればと思えました。

父母会諸先輩の皆様、学校関係者の皆様とともに努めていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願致します。

◆ 工藤 恵美

本年度、父母会役員を務めさせていただきますことになりました。

今年創立一四〇周年を迎える伝統ある二松學舎大学の父母会役員として携わることができ光栄です。

父母会を通し、学生の皆さんがより良い大学生活を送ることができるよう諸先輩方の教えを頂きながら、微力ではありますが努めさせていただきますと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

ご あ い さ つ



PROGテストと ジュネリックスキル

学 長 菅原 淳子

さて、本学では昨年に引き続き今年の一月に、両学部的一年・三年生を対象に実態・満足度調査を行いました。教育内容に対する満足度は昨年同様に他大に比べて高く、学生の

四月に入学した新入生の皆さんも大学生活に慣れ、七月末には初めての定期試験を迎えます。また四年生は就職活動、教員や公務員を目指して試験勉強に日々健闘しています。五月の父母会総会後に始まった地区別父母懇談会は、今年も北は札幌から南は沖縄まで九会場で開催され、父母の皆様が大学の現況やお子様の学習状況をご報告させていただきました。

自己判断ですが学修成果は上がっていることが窺われました。また四月から六月には同様に両学部の一年・三年生を対象に、基礎力測定（PROG）テストを初めて実施致しました。このテストは全国二〇〇以上の大学で利用されており、ジェネリックスキルとしての基礎力をリテラシーとコンピテンシーの二側面から測定するものです。リテラシーとは知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用や学び続ける力の素養をみるもの。コンピテンシーとは経験から身についた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養をみるものです。本学の文学部生のリテラ

シーは高いものの、コンピテンシーにやや課題があり、一方国際政治経済学部生は逆の傾向があることが分かりました。今日のめまぐるしく変化する社会では、誰もが未知への事態への対応を迫られる可能性があり、そのためにもジェネリックスキルが求められています。実態・満足度調査やPROGテストの結果は大学全体で共有し、カリキュラム改革や授業改善を通して教育改革につなげていきたいと考えております。保護者の皆様には、今後も本学の教育に対するご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



「アクションプラン28」

理事長 水戸 英則

「N2020PLAN」の実行計画である「アクションプラン」(以下AP)の実行状況は、「AP年次報告書」(平成28年度)に取り纏め、大学ホームページに公表しております。28年度AP実施済みの事項は、教育改革の一環として、最近の環境変化に対応した学部学科の改組を行いました。具体的には、本年4月に文学部の新学科「都市文化デザイン学科」が新たにスタートしました。本学科については、その研究拠点として、秋葉原に「アキバラボ」を設置し、都市文化の発信基地とするなど新しい試みを行っております。また国際政治経済学部においては、平成30年度から定員80名の国際政治経営学科の新設を決定、文部科学省より本年6月末に正式に認可されました。また大学の定員について

は、文学部が35年ぶりの増員として国文学部定員を40名増員、また国際政治経済学部においても同学部開設の平成3年以降26年ぶりの増員40名、計80名の増員を果たした次第です。本年は一四〇周年に当たり、周年記念事業の第一弾として、大阪大学大学院基礎工学研究科石黒教授や学習院大学夏目房之介先生との共同研究として「漱石アンドロイド」の製作が順調に進められ、本学広報や学生募集に一役買ったところです。また食育教育として、松苓会・父母会の協力の元、「一〇〇円朝食」を実施、学生的好评を得ております。これらの対応により、平成25年度から4年連続で文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業、タイプ1」教育の質転換型」に採択され、補助金を獲得しております。

得いたしました。一方、学生ポータルフォリオの利用者の拡大、大学院の内部進学者の増加、附属中学校・附属高校・大学の「中大連携」等進捗が遅れている課題については、重点課題を抽出し、「AP推進管理委員会」において、課題の改善を加速化させております。最後に、一四〇周年に当たり、現在N2030PLANを策定中です。私立大学を取り巻く環境は年を追って、厳しさを増しており、新たな計画が必要になってきております。既に皆様からも、種々意見をいただいております。それらを織り込みながら、策定中です。本年10月の一四〇周年記念式典で公表予定でありますので、引き続き、ご支援・ご協力をお願いする次第です。

平成29年度 二松學舎大学 父母会定期総会議事録

日 時：平成29年5月27日(土) 13:30～17:20

場 所：九段校舎 中洲記念講堂

講 演：「漱石アンドロイド」プロジェクト

～研究の目的と制作過程～

学校法人二松學舎常任理事 西畑 一哉 先生
文学部国文学科教授・学務局長 瀧田 浩 先生
二松學舎大学特別教授 夏目 漱石 先生
(アンドロイド)

出席者：本年度会員数 2,866名

委任状 930名

出席者 104名

合計 1,034名

大学側：菅原学長、高野副学長、磯副学長、
瀧田学務局長、西園教学事務部長、
小西教学事務部副部長、竹内学生支援課員

1. 開会の辞 司会 安達香里氏

司会者より「本日総会時の会員数は、2,866名であり、父母会会則第9条により委任状を含めて573名の出席が必要です。本日の出席者は104名。委任状は930名。合計1,034名です。よって本日の総会は成立する。」との説明があった。

続いて、渡邊勝文父母会長、菅原淳子学長からそれぞれ挨拶があった。

2. 議長指名

司会者より「総会の議長は父母会運営細則により会長または会長の指名するものとなっております、会長より宮脇正裕さんが指名されているので、宮脇議長のもとで議事を進行させたい」との説明があり、宮脇氏が席についた。

3. 書記・議事録署名人指名

宮脇議長が書記及び議事録署名人として次の各氏を指名した。

書 記	酒井継美氏
議事録署名人	鈴木千晶氏、後藤眞代氏

4. 議 事

◇第Ⅰ号議案〈平成28年度事業報告並びに決算〉

渡邊会長より、議案書に基づき概要説明があり、続いて田沼会計監査より監査報告があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇第Ⅱ号議案〈平成29年度役員選出〉

宮脇議長から、会則第6条・9条及び父母会運営細則第3条に基づき、総会において役員(会長・会計監査)を選出することとなっているとの説明があり、その選出方法について諮られた。

選出方法が議長に一任されたのを受け、宮脇議長から前回同様、大学側に候補者の推薦を依頼したいとの提案があり、承認された。依頼をうけた大学側(瀧田学務局長)より次の各氏が推薦された。

会 長	南條麻里氏
会計監査	久田恵美氏、白根真弓氏

宮脇議長が大学側から推薦された各氏について諮ったところ異議なく承認された。

続いて南條新会長より就任の挨拶があった。

◇第Ⅲ号議案〈平成29年度事業計画並びに予算〉

南條新会長より、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

議事終了後、下記の退任役員へ菅原学長より感謝状と記念品が贈呈された。

渡邊勝文氏、田沼好志枝氏、三原由美子氏、 田中幸子氏

5. 閉会の辞 司会 安達香里氏

◇懇親会

九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催された。

17時20分、盛会のうちに終了した。

平成29年5月27日

議 長	宮脇 正裕	㊟
議事録署名人	鈴木 千晶	㊟
議事録署名人	後藤 眞代	㊟
書 記	酒井 継美	㊟



平成29年度役員

氏名	役職	学年 (お子様の所属)
南 條 麻 里	副会長	4年
瀧 田 浩	副会長 (学務局長)	
宮 脇 正 裕	副会長	3年
酒 井 継 美	委員	4年
結 城 文 子	委員	4年
久 田 恵 美	委員 (会計監査)	4年
鈴 木 千 晶	委員 (企画)	3年
安 達 香 里	委員 (企画)	3年
白 根 真 弓	委員 (企画・会計監査)	3年
加 藤 典 子	委員 (広報)	2年
後 藤 眞 代	委員 (広報)	1年
田 中 清 美	委員 (広報)	2年
中 澤 稔	委員 (広報・会計)	2年
小 柴 有 佳	委員	1年
新 郷 尚 美	委員	1年
由 川 志 織	委員	1年
工 藤 恵 美	委員	1年



桜花爛漫の四月の入学式からはや四カ月。七二八名を数えた新入生もキャンパスでの生活にも慣れ、ようやく大学生らしくなってきました。高校時代とは異なり、自分の裁量・責任で、判断・選択し、作り上げていく生活が始まりました。新たに出会う様々な経験を得た学友が二松學舎で新しいスタートを踏み出しました。ここでは、大学生生活にたいする抱負・意気込みを各学科の新生に書いてもらいました。





国文学科

永山 虎太郎

大学といえば、広い敷地の中にくさんの建物が並ぶ小さな街のようなところというのが田舎で育った私の大学へのイメージだった。だから、ビルが丸々キャンパスになっているこの二松學舎大学を見たときは驚いた。田舎者丸出しの反応だが、東京の中心という立地もあってとても都会的な大学だと感じていた。

分野を見つけられるのではないかと思う。そのくらい文学の授業の種類が充実している。

自分の趣味や好きなものに没頭できるのもこの大学の特徴だと感じた。大学内で活動することが難しい分、外に出て本格的に活動することが可能だし、文化系のサークルがとても充実しているので話の合う人を見つかりやすいと思う。この大学での生活を通して、自分の好きなものを突き詰めた人にはピツタリの大学だ。

田舎から東京の中心の二松學舎大学に出てきてよかつたと思うことは、今までと行動の幅が比ではないほど広がったことだ。美術館や博物館も数多くあるし、劇場で舞台を観たりライブに行くにしても、毎日色んなものが行われているのでどれに行くか迷うほどである。自分の好きなものに没頭できる環境に感謝しながら大学生活を充実したものにしていきたい。

暮らしにも慣れてきて周りを見る余裕が出てくると、都会的なだけではなく学生がみんなそれぞれ志を持っていることに気付いた。それぞれが自分の好きなものをしつかり持っていて、何か一つを極めようという人が多いように感じている。文学の授業に特化していて、専門的なことが多く学べるのがその理由だと思う。正直に言うとこの大学には残念ながら第一志望校に行くことができないに通っているという人もいます。そんな人でも、この二松學舎大学の授業を受けているうちに自分の好きな

大学に入学して

私が二松學舎大学を知ったきっかけは、高校の恩師である。書道本格的に学ぶことができる大学は全国的にも数少ない。また、書道で有名な大学はどこも地方にある。志望校を決めかねている中、恩師が二松學舎大学を勧めてくれた。書道について幅広く勉強できること、家から通いやすいこと、そして恩師の母校であることから、二松學舎大学に決めた。

受験まで毎日、書を数十枚書き、添削してもらい、書き直して次の日にまた添削してもらうことを毎日続けた。そのおかげで、こうして二松學舎大学に入学することができた。

そもそも私が書道を勉強したいと思いはじめた理由は、小学三年から書を習い続けているからであるが、恩師との出会いが大きい。その恩師は高校二年の時に出会った。書道の知識が多いだけではなく、書に対して熱く、真剣に向き合っている姿に憧れを抱いた。そんな姿を見て、私の理想像であると思い、改めて書と向き合い、今まで私が考えていた書とは何か振り返った。書とは、ただ



中国文学科

三本木 かや乃

書くのではなく、古人から学び、自身と真摯に向き合う芸術であると感じた。書を知れば知るほど、書の魅力にはまっついていき、もっとたくさんな事を学びたいという欲が出た。書の楽しみ知ったのは、恩師のおかげであり、心から感謝している。

入学から四ヶ月、書道だけではなく、教職課程の授業や中国に関する授業を受けることで、毎日多くの刺激を受けている。高校で中国語を勉強していたが、中国学について勉強するのは初めてで、始めて知る事柄や新たな発見があつて楽しいし、もっと知りたいという意欲も出てきた。多くを学ぶことで、違った視点から書を知ることができるようになった。勉強面以外では、ボランティアサークルに入り、人を思いやる気持ちや自分自身を改めて考える機会ができた。これから、ただ学生生活を送るのではなく、自主的に学ぶことで、学力とともに、精神的にも成長できる学生生活にしていきたい。



都市文化デザイン学科

吉澤輝璃

ただ漠然と「大学受験」について考えていた頃の自分が、いずれこの二松學舎大学の、それも文学部に入学すると知ったらどう思うだろうか。国語は現代文古文ともに大の苦手科目で、今まで人並み程度にしか読書もしてこなかった自分がかまか文学部生になるとは想像もしていなかっただろう。

二松學舎大学を知ったきっかけは、高校時代の恩師であった。恩師は二松學舎大学文学部の卒業生で、真面目で勤勉な生徒が多いこの大学は私にも合うだろうと勧められていたこともあり、二松學舎大学への受験を決めた。

ここに入学して早四ヶ月、片道約二時間の満員電車での通学や高等学校とは大きく異なりより専門的になっていく講義内容など、慣れないことばかりで最初は困惑したが、今は充実した大学生活を送っている。

今まで何か一つのことには情熱を持ち熱心に取り組んだという経験があまりなく、ただ流されるままに生きてきた私にとって大学での様々な経験はとても刺激的だった。大学での

多くの出会いを通して、自分の視野がいかに狭かったかに気づくことが出来た。

入学直後、私は周りの学生の国語力に正直驚き、また自分の知識の乏しさに絶望した。文学部に在籍するからにはそれなりにできる人が来るのだろうとは理解してはいたが、周りと自分とのギャップに苦しみ悩んだ時もあった。

自分を変えるためには自分が今までに逃げてきたことに立ち向かわなければならぬ、と気づかせてくれたのは大学受験と、そしてこの二松學舎大学なのではないかと思う。まだ入学したばかりではあるが、ここでの四年間を通して様々な知識や経験を手に入れ、出会いを大切に、自分自身の更なる成長に向け一杯頑張っていきたい。

大学に入学して

私は悩んでいる。埼玉の田舎の高校に通っていた時代には味わうことのなかった通勤・帰宅ラッシュ時に押し寄せる人の波には慣れたが、学生生活や自分の将来に対する不安は解消されない。

私が今気にしていることは、学内の人的ネットワークをどのようにして増やすかということ。私はサークルに所属せず、一人でいる時間を好む。コミュニケーション能力に難があるというわけではないが、周囲の人々と接する時間が皆さんに比べて少ないのだと思う。ただ生きているうちは、一人の力ではどうやっても解決できないことに直面するときに必ずやってくるので、そんなときに頼れる人々に出会えれば良いと願う。そんな社交性に乏しい私がこのような場で文章を綴ることになったのは有難いことであり恐れ多いことなのだが、この機会に学生の今と将来について考えてみることにした。

大学卒業後の就職、結婚、老後の生活、これまで当たり前前に設計してきた理想の人生は、今では誰もが簡単に手に入れられるものではなく



国際政治経済学科

岸直人

りつつある。それが原因で、大学生のうちから将来に対する不安を感じている方々も多いのではないだろうか。私もその一人だ。だが、そういった不安の解消を先送りにせず、どうすればそれを振り払うことができ、立ち止まっても自分自身で考えるべきだ。就職難、経済、家庭など、不安の原因を知る。原因が分かれば、対処法も自然と見えてくる。今は将来に対して不安があっても、焦らず、ただ諦めずに向き合っていきたい。

私は学生生活に安定は求めている。こうしている間にも、世界の情勢は変化し続けている。大量の情報や情報が飛び交うこの社会を生き抜くため、自分の判断で情報を仕入れ、整理し、周囲に発信できる人間になりたいと思う。そのために、毎日テーマを持って学業に取り組み、様々な人々と多様な意見に触れ、少しでも人間として成長し、全力で「今」を生きられるようになりたい。



文学部 専任講師
張 佩茹

今年度初めて受け持つゼミナールⅡでは、就職活動で大忙しのゼミ生を目の当たりにして、実質的なサポートは何もできないというもどかしさを感じながら、心からエールを送っているこの頃だ。私自身は大学を卒業してすぐ大学院に進み、普通の就職活動は一つもしていないが、学生時代は少しでも実社会のことを体



国際政治経済学部
専任講師
合六 強

私は小さい頃から海外旅行が大好きでした。そこに住む人、食べ物、文化、宗教などに常に興味をもっていました。国際政治を勉強したいと思っただけは、二〇〇一年夏、高校二年生の時に経験した米国ボストンでのホームステイです。ホームステイそのものも良い経験になりましたが、帰国後一ヶ月して米国で同

験しようと思ひ、機会があれば実習にチャレンジしていた。

ほとんどの実習体験は、大学に編入する前の高等専門学校時代のことだった。当時、英語を専攻していたが、英語圏国家の留学フェアや国際シンポジウムで何回か簡単な通訳のお手伝いをした。留学フェアでは、語学の習得のみならず、専門的なスキルを身に付けるために留学を考へる若い学生から良い刺激をもらった。また、聴覚と神経をテーマにした国際シンポジウムでは、様々な国からの研究者に出会い、そ

時多発テロが起こります。滞在中ニューヨークにも訪れていたため、その時の衝撃は今でも忘れられ

ません。またホストファミリーがイラク戦争に参加したことで、もはや戦争が他人事とは思えず、国際社会ではなぜこうした問題が起こるのかという漠然とした問題意識を持ちました。大学に入学後は、以前より希望していた長期留学のために国際政治学の知識を得るとともに、語学についても様々な形で取り組みました。留学先は、結局、米国ではなくフラン

私の学生時代

の中でも日帰りのバス旅行で豪州出身の研究者から聞いたこうもりの聴覚についての話が最も印象的だった。専門外だったため、一部の内容しか理解できなかったが、その方の研究への熱意が伝わってきた。以上は短めの実習だったが、その他に二、三週間のインターンシップにも二回参加した。一回目は世界四大博物館と称される台北国立故宮博物院での実習だった。そこ

には外国語に精通する解説員が在籍しているが、私は見習いとして受付業務を担当した。その合間に

スを選びました。絶えず戦争の舞台となってきた欧州が、なぜ第二次世界大戦後には安定したのか。

また日本と同様に米国の同盟国である欧州諸国は、米国とどういう付き合いをしているのか。こんな問題関心から、留学先をフランスに決めたのです。留学のために必死で仏語を勉強しました。現地ではフランス人と席を並べて国際政治やフランス政治などの授業を履修しました。授業についていくだけでも苦労しましたが、フランス人の友人や留学生の仲間と互いに励

様々な展示を自由に見回ることができて貴重な体験をした。例えば、二〇一四年に東京国立博物館で展示された際に一二〇分待ちの時もあった「翠玉白菜」という名品を並ばずにじっくり鑑賞できた。もう一回の実習は自動車ボディの金型を製造する会社だった。その会社は日本企業との取引があるため、第二外国語として習った日本語も少し応用できた。

結局、私は一般企業に就職しなかったため、これらの実習経験は履歴書に書くことはないが、人生経験として今も大切にしているものだ。

ましあいなんとか乗り切りました。現地の大学ではゼミ形式の授業が多く、毎回報告の後、論点を出し合って徹底的に議論します。様々な国から来ている学生たちと議論することは大変なのですが、多様な見方・立場を知るうえでとても貴重な経験になりましたし、新たな知識や視点を得ることができれば、そこからまた新たな問題意識も生まれます。留学時代の友人とは今でもつながっており、彼らとの議論のなかで生まれた問題意識は研究者となった今でも大切に持ち続けています。

【四年次生の就職活動状況について】

現四年次生の就職活動スケジュールについては、日本経済団体連合会の指針に基づく大手企業の採用選考のほか、早期に選考を開始した中小企業が多くあり、早いものでは三月中に内々定が示されたケースもございました。昨年度と同様に企業の採用傾向が良好であるため、複数の内定を得ている学生からの報告も届いています。

しかしながら、近年の日本の産業構造変動や政府の「働き方改革」により、企業側にも、また学生による職業選択にも新しい傾向が表れつつあると感じております。いわゆる「ブラック企業」と称されるような働き方の企業は社会から厳しい目



キャリアセンター受付カウンター

で見られることとなり、学生が企業を分析する見方もより慎重になりま

す。業界・企業研究が充分に出来なかつたり、活動開始のタイミングが遅れてしまった学生には、現在も就職活動中の方もいます。本学では、四年次生向けの求人継続企業の中から抽出した優良求人企業を学内に招き、二松學舎大学生のみを対象とした企業説明会を六月・七月に開催いたしました。夏休み明けにも同様の企画を検討しておりますので、ご子女が就職活動継続中でありましたら、キャリアセンターの行事案内を随時確認するようにご指導をお願いいたします。

【三年次生の個人面談について】

前号にてご案内いたしました「進路登録カード」をもとに九月から三年次生を対象に個人面談の呼びかけを行います。

この面談は、卒業後の進路について「民間企業・公務員・教員希望」だけでなく「進学希望」なども含めて三年生の希望を登録する重要な面

ア
ー
47
リ
タ
リ
キ
セ
だ
ヤ
ン
よ

【夏期インターンシップについて】

談となります。この面談をきっかけとして希望進路への事前準備にとりかかることが希望実現への第一歩ともなりますので、個人面談での希望確認に対応するようにご父母の皆様からお口添えを頂きたいいたします。

今年度もインターンシップ参加希望者向けにガイダンスやマナー講座の開講、そして事前事後指導を行う「インターンシップ特別講座」を開いております。学生の意識も高く、今年の夏休みには提携機関だけでなく自由応募のインターンシップや、官公庁の公務員インターンシップへの申請数も増加しております。インターンシップ中に万が一事故等に遭うようなことがあった場合、学内関係部署間で遺漏なく対処するため、ご子女がインターンシップに参加される場合、キャリアセンターへの報告を行うようにご指導くださいますようお願いいたします。



企業インターンシップの様子



個人面談の様子

「自分は大人だと思うか、子どもだと思うか」と学生さんたちに聞くと、「もう子どもじゃない」と多くの学生さんが話します。ですが、大人とも言いきれない微妙な心情のようです。親御さんに対しても、もう口を出さないでくれと言わんばかりの言動だったり、家で過ごすことが少なくなったりと急に手が離れたように感じられる時

もあれば、「ご飯まだあ？」などと小さい頃とまだまだ変わらない様子が見られる時もあるかもしれません。そのようなお子さんに対して、もう子どもではないのだからと自分で考えて行動することを求めたかと思えば、「早く起きなさい!」「何時だと思ってるの」などという口を出してしまうといったように、親御さんもまたお子さんへの関わりがどうもうまくいかないと感じることもあるかと思えます。

子どもはある日突然大人になるわけでもありませんし、大人同士の親子関係になれるわけでも

学 生 相 談 室
だ よ り 97
カウンセラー 小野田奈穂

ありません。大学生というこの時期に、お子さんと親御さんそれぞれが今後の関係を模索していくことで、少しずつ大人同士の新たな親子関係につながっていきます。お子さんが大人になっていくことは、これまでの親子関係がなくなってしまうようで寂しさを不安を抱くかもしれませんが、

これまでの関係が消えてしまうのではなく、それが土台となつてこれからの関係が築かれていきます。そう考えると、これまでの子育てで嬉しかったこと、楽しかったこと、そしてたくさん悩んだこと全てが捨てられない財産に感じられますし、今の悩ましい模索の時期もまた、いつか財産になっていくと思えます。

とは言い、毎日のお子さんとのやりとりで行き詰まることもあるかと思えます。学生相談室では、親御さんからのご相談も受け付けています。行き詰まりから抜け出せなくなつたときには、お気軽にご相談ください。

✿ **新 入 生 歡 迎 式 典** ✿

平成二十九年学生会執行委員会会長を務めております、文学部国文学科の安積良亮です。新入生の皆さんご入学おめでとうございます。新入生の皆さんはもう大学生活には慣れましたか。高校を卒業して大学入学にあたり上京して一人暮らしをする方もいると思います。今までと違う環境で大変な事も多いとは思いますが、東京の中心である地で学ぶ楽しさ、利便性などはこれから実感していくものと思います。

さて、四月七日に開催された新入生歓迎式典。新入生歓迎式典は新入生と在校生の交流を深め、そして更に、新入生に部活やサークル等の周知を図るために開催いたしました。今年度の新入生歓迎式典は「曙光(しよこう)」という言葉テーマを進めていきました。コンセプトは、これから始まる学生生活を楽しむためのきっかけが見つけられるような新入生歓迎式典にしたい、というものでした。この言葉通りに新入生歓迎式典が皆さんにとってこれからの大学生活を楽しむきっかけになれば幸いです。新入生だけでなく在校生

も楽しめたのであれば幸いです。今年も平日での開催でした。そのため、多くの新入生に参加していただきました。今年の新入生は積極的で明るい人たちが多く、主催側である私たち学生会執行委員会も非常に楽しむ事ができました。またこの新入生歓迎式典が無事に成功したのは父母会の皆様、学生支援課の方々はじめ、各部活・サークルの皆さん。そして同じ学生会執行委員会の仲間のおかげだと思えます。心より御礼申し上げます。

そして新入生の皆さん、二松學舎大学へようこそ。新入生歓迎式典に参加して下さった新入生のみならず、ご参加ありがとうございました。今回の新入生歓迎式典を通してできた団体や友人とのつながりがみなさんの大学生活をより素晴らしいものにする事を学生会執行委員会役員一同、心より願っております。これからの四年間、様々なことがあると思えます。一緒に頑張ってくださいませ。今後ともよろしくお願いたします。

POP @ GUTS 2017



こんにちは、九段祭POP 2017行事責任者を務めさせていただきました。国際政治経済学部二年の渡邊永美です。今年も、学生会執行委員会主催の行事として、九段祭POP2017を六月十八日(日)に九段キャンパスにて開催いたしました。九段祭POPとは、文化系団体が日頃の活動の成果を発表する学内

生向けの文化祭のことです。「彩雲」というテーマを掲げ、「活気に溢れ、楽しい九段祭POPにしたい」というコンセプトのもと、役員一同精一杯努めて参りました。今年も例年ご参加いただけていなかった団体にも参加していただきました。準備段階では、団体の皆様、チラシやポスター、部誌などの作成や、発表の練習をしている姿が見受けられました。役員も、団体の皆様が満足のいく発表ができるよう、準備して参りました。開催当日は、中洲記念講堂でのステージ発表で盛り上がりを見せていた他、大教室を使用し、ライブや演劇、冊子配布や展示を行う教室発表でも、来場者の方々の楽しむ姿が見られました。どの団体も素晴らしい発表内容でした。また、学生会執行委員会でも、企画を幾つかご用意いたしました。毎年恒例のビンゴ大会や、フオトスポットを設け、思い出の一枚を残せるような企画、子どもから大人まで楽しめる縁日などを行いました。こちらも各団体の発表同様、多くの来場者に楽しんでいただけたことと思います。

今年も過去最多である二六〇〇人の来場者の皆様にお越しいただけました。これもひとえに参加団体の皆様、来場者の皆様を始めとする、九段祭POPに携わってくださった皆様のお蔭です。この場をお借りし、御礼申し上げます。今後とも、学生会執行委員会をよろしくお願いたします。

「柏祭GUTS2017」

柏祭GUTS2017責任者を務めさせていただきました、文学部国文学科二年の富田樹里です。昨年に引き続き「柏祭GUTS」と称し、本学柏キャンパスにて球技大会を開催いたしました。今年

は男子バスケットボール・女子バスケットボール・男女混合ドッジボールの三部門を設け、エントリーの募集を行わせていただきました。運動系団体をはじめ例年以上にたくさんの方々からエントリーをいただきました。エントリーの連絡を受けるたびに喜びを噛みしめていたのを思い出します。「参加されるすべての方々には思い切り笑顔になつていただきたい」そのような想いから、テーマは「笑晴」といたしました。

開催日当日の朝はあいにくの雨でした。そのため、ドッジボールの部の開催中止という苦渋の決断をいたしました。役員一同、参加を楽しみにして下さっていた方々の気持ちを考えて胸が痛みました。そんな私たちの願いが通じたのか、開催開始とともに徐々に雨も上がり、晴れ間まで顔を出し始

めました。バスケットボールへご参加いただいた皆様の笑顔とやっとな顔を出し始めた太陽、まさに「笑」と「晴」がひとつになった瞬間でした。

共に励んでくれる仲間が存在、参加して下さる方々の温かい声、周囲の方々の支え、大切なものをたくさん感じながらの日々を過ごすことができました。大学生活においても濃密で、貴重な数ヶ月間だったと感じております。ご参加いただいた皆様やお力添えいただいた関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。



飯田ゼミナール

飯田ゼミは、三年生二十名、四年生二十一名で構成されており。ゼミでは、国際経済における経済事象を知るといっただけではなく、それを経済学的に見るとどのように分析できるかを考えることを重視しています。また、一年生のときから勉強してきた経済学、そしてこれから勉強していく経済学を最大限活用して、自分らしい分析を卒業論文につなげていくことを目標としています。三年

生の春セメスターの発表では、パワーポイントを用いて、ゼミ生各自が興味のあるテーマで発表をしました。飯田ゼミでは、就職活動や社会人になってからのことも考え、プレゼンテーションの技術を高めることにも取り組んでいます。毎回、ゼミの終わりには、飯田先生からゼミ長である私にコメントが求められるので、いろいろ考えてコメントをしております。

飯田ゼミでは、卒業生と在学生とのコミュニケーションも大切にして

飯田ゼミ第二期生(二〇〇九年三月卒業)で、現在、ソニー生命にいらつしやる佐々木隆一さんと田中康貴さんに、ライフプランニングに関する講演をしていただきました。佐々木さんと田中さんから、卒業生と在学生とのつながりを強めたいというお言葉をいただき、これから就職活動に取り組む私たちにとって、とても心強いと感じました。

この夏休みには、毎年恒例のゼミ合宿があります。これからも三年ゼ

伊藤ゼミナール

私たちが所属する伊藤ゼミは、伊藤先生の指導のもと、日々『三国志』研究に励んでいます。ゼミナールの時間には、中国文学史における『三国志』の歩みを学習するところから始まり、映像作品を鑑賞したり、『三国志演義』を中国語で読んだり、『三国志』に関する知識を身につけます。『三国志』に関する文献や論文などを読みながら徐々に卒業論文に向けての研究に発展していきます。

授業や合宿で行う発表は、学生主体のディスカッションによって進行し、発表の最後に先生からアドバイスをいただきます。合宿での卒業論文に向けての発表は、いつも以上に緊張した雰囲気がありますが、その他の時間は学年の枠を越え、皆で楽しく過ごすことができるので、素晴らしい思い出作りになります。

担当の伊藤先生は、授業内容や卒業論文に関することだけでなく、進路やその他の相談などにも親身になって下さいます。普段は優しく親しみや

すい先生ですが、時には魏王・曹操のように、厳しく指導して下さい、私たちを導いて下さいます。また、ゼミ生は『三国志』の登場人物のキャラクターに合わせたゼミネームをいただくのが、伊藤ゼミの伝統です。『三国志』を愛し、『三国志』の英雄の名を持つ私たちは、「生まれし日、時は違えども兄弟の契りを結びしからは、同年、同月、同日に死せん事を願わん。」と誓いを立てています。(誓いの程度には個人差があります。)小説や漫画、ゲームなど『三

ゼミ探訪

ミ生どうしのつながり、四年生とのつながり、卒業生とのつながりを大切にして、充実したゼミを作りたいと思います。

国際政治経済学科三年ゼミ長 田原 創太

国志』への入り口は皆それぞれ異なりますが、同志として義兄弟の契りを結んだ劉備・関羽・張飛のように共に学んでいます。

中国文学科四年 新井 拓郎



平成28年度決算の概要

二松學舎創立135周年(平成24年10月)を機に策定した長期ビジョン「N'2020 Plan」及びその実行計画「アクションプラン」の各課題について、施設設備整備をはじめ大学・両附属高校・中学校の具体的な改革を推進している。当年度、入学者の募集定員充足率は、大学/学部122%、附属高校100%、柏高校112%、柏中学校42%であり、在籍者の収容定員充足率は、大学/学部118%、附属高校101%、柏高校120%、柏中学校46%であり、大学院および柏中学校で入学定員、収容定員ともに未充足となった。大学では、九段校舎1号館地下1階トイレ改修整備、柏校舎3号館(体育館)及び6号館(武道館)耐震工事、柏校舎1号館空調工事のほか、文学部で「都市文化デザイン学科」新設に伴い、ポップカルチャーが集結する秋葉原に日本文化の発信拠点として新たに「アキバラボ」を開設した。附属高校では、放送室放送設備の更新、校内無線LANの敷設、九段校舎南面外壁の補修工事を実施し、附属柏中学・高校では、校舎のバリアフリー化と屋外通路の屋根設置工事、パソコン教室機器類の更新、生徒用ロッカーの増設を行った。また、140周年記念事業の一環として、本学にゆかりのある夏目漱石のアンドロイドを大阪大学大学院、朝日新聞社と協力して作成した。「漱石アンドロイド」には、講義・授業用のプログラムを搭載し、大学・高校・中学での講義・授業やシンポジウムの開催などを予定している。大学においては、平成23年3月11日に発生した東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災学生に対し、授業料等の減免措置を引き続き実施した。

平成25年4月に学校法人会計基準が改正となり、財務計算書類の大幅な書式変更が行われ、文部科学大臣所轄の学校法人(本法人)は平成27年度決算から新基準が適用となった。

従来、学校法人における決算書は、事業年度の消費収入と消費支出の均衡状態や財政の健全度合いを示す「消費収支計算書」、学校法人の諸活動に関わるすべての資金の流れを示す「資金収支計算書」および年度末における資産・負債・正味資産の状態を示す「貸借対照表」の3つであった。

改正後、「資金収支計算書」は、多少の科目名の変更があるがほぼそのままである。新たな附属表として「活動区分資金収支計算書」が加わり、「教育活動」、「施設整備活動」、「その他の活動」に3区分し、資金収支情報の充実が図られた。

消費収支計算書は、「事業活動収支計算書」として名称が変わり、大きく書式変更となった。新基準では、「教育活動収支」(本業)と「教育活動外収支」(財務)の經常収支と臨時的な「特別収支」に区分され、基本金組入前当年度収支差額(従来の帰属収支差額)を表示する様式となった。

平成28年度の決算概況

1. 事業活動収支計算書について(別表1)

事業活動収支計算では、事業活動収入合計が57億7千万円、事業活動支出合計は53億8千万円、基本金組入前当年度収支差額は3億9千万9百万円の収入超過(前期比1億9千3百万円増加)となった。基本金組入額は4億7千万円(借入金返済額2億4千9百万円、施設設備整備1億5千7百万円、支払資金増加額6千4百万円)であり、当年度収支差額は7千2百万円の支出超過となった。

教育活動収入では、入学者数が大学院18名・学部730名・附属高校249名・柏高校314名・柏中学校43名、合計1,354名で前期比9名減少、在籍者数は大学院44名・学部2,830名・附属高校755名・柏高校1,004名・柏中学校141名、合計4,771名で前期比1名増加し、学生生徒等納付金は40億4千4百万円(前期比8千9百万円増加)となった。經常費補助金は8億8千2百万円(うち国庫補助金2億5千5百万円、東京都補助金2億5千7百万円、千葉県補助金3億2千4百万円)、付随事業収入が6百万円、雑収入は1億5千万円(うち退職金団体交付金9千6百万円)で合計52億4千2百万円となり、教育活動支出では、人件費が29億1千7百万円(柏高教員増加等、退職給与引当金増加等により前期比1億1千6百万円増加)、教育研究経費は18億5千3百万円(奨学金拡充、減価償却額増加等により、前期比1千3百万円増加)、管理経費は4億9千7百万円(広報費減少により前期比8百万円減少)、教育収支活動差額は3千3百万円の支出超過、資産運用収入及び借入金等利息等の教育活動外収支差額は1億2千6百万円、經常収支差額は9千3百万円、資産売却及び資産処分差額等の特別収支差額は有価証券売却差額の増加により3億5百万円となった。

2. 資金収支計算書について(別表2)

収入の部では、有価証券の償還等による資産売却収入は17億2千4百万円(前期比5億6千4百万円減少)、学納金等の前受金収入は10億5千1百万円、その他の収入は退職給与引当特定資産等からの繰入収入、前期未収入金収入等により2億9千3百万円、前期繰越支払資金27億1千2百万円を含め収入の部合計額は100億2千4百万円となった。支出の部では、人件費支出が28億8千9百万円(柏高教員増加、共済掛金増加、前期比5千8百万円増加)、教育研究経費支出は12億6百万円(前期比2百万円減少)、管理経費支出は4億6千4百万円(前期比8百万円減少)、借入金返済および利息支出は2億7千3百万円となった。施設設備関連の支出は施設の整備拡充により1億1千3百万円、図書・備品の購入等で1億6千3百万円、資産運用支出は退職給与引当特定資産繰入、有価証券等購入により21億8千6百万円となった。このほか立替金支出、保証金支出等2億2千万円があり、翌年度繰越支払資金は26億9千6百万円(前期比1千6百万円減少)となった。

活動区分による資金収支の状況(別表3)は、教育活動による資金収支差額は7億2千5百万円(収入超過)、施設整備等活動(設備投資とその財源)による資金収支差額は2億4千8百万円(支出超過)、その他の活動(財務活動等)による資金収支差額は4億9千3百万円(支出超過、これにより支払資金の増減額は前期比1千6百万円(減少)となった。

3. 貸借対照表について(別表4)

資産の部は、有形固定資産が大学九段既存校舎及び附属高柏合宿所の改修整備、図書・備品の取得等により2億7千2百万円増加、除却及び減価償却6億8千万円等により180億2千5百万円(前期比4億9百万円減少)となった。特定資産は15億7千1百万円(2千2百万円増加)、その他の固定資産は、有価証券の購入、定期預金等により22億6千2百万円(前期比8億9千万円増加)となり、流動資産は62億7千4百万円(前期比2億5千4百万円増加)となった。

負債の部は、長期借入金及び長期未払金の翌年度返済(支払)額の流動負債への振替、退職給与引当金の増加により固定負債は23億4千万円となった。また、短期借入金及び短期未払金の返済(支払)等により流動負債は16億8千7百万円となり、負債の部合計額は40億2千6百万円(前期比1億4千9百万円減少)となった。

基本金の部は、第1号基本金(建物・図書・備品等固定資産の取得)、第3号基本金(奨学基金)、第4号基本金(恒常的支払資金)の組入額4億7千万円により268億9千2百万円となった。

これらの結果、平成28年度末における貸借対照表は、資産の部合計額281億3千2百万円、負債の部合計40億2千6百万円、基本金268億9千2百万円及び繰越収支差額27億8千7百万円(支出超過)により、純資産の部合計額241億5百万円(前期比3億9千9百万円増加)となった。

4. 主な財務比率について(別表5)

事業活動収支関係比率では、教育の質向上を図るための各種事業の実施により人件費比率(經常収入に占める人件費の割合)、人件費依存率(学生生徒等納付金に占める人件費の割合)および教育研究経費比率(經常収入に占める教育研究経費の割合)は上昇となった。事業活動収支差額比率は学納金及び有価証券売却差額の増加により前期比プラス3.2ポイントとなり、基本金組入後収支比率(事業活動支出の割合)は前期比マイナス12.1ポイントとなった。また、校地校舎の施設整備計画の進捗により基本金組入率は上昇傾向にあったが、新規設備投資が一段落し前年比マイナス7ポイントとなった。

貸借対照表関連比率では、私学事業団等借入金の返済により固定負債構成比率(総資金に占める固定負債の割合)及び総負債比率(総資産に占める総負債の割合)並びに負債比率(自己資金に占める総負債の割合)が低下した。資産運用による有価証券(長期)の増加により固定資産構成比率(総資産に占める固定資産の割合)、固定比率(純資産に占める固定資産の割合)が上昇し、流動資産構成比率(総資産に占める流動資産の割合)、流動比率(流動負債に占める流動資産の割合)は低下したが、内部留保資産率(財政上の余裕度)、運用資産余裕比率(支出規模に対する資金の蓄積度)が上昇となった。また、純資産構成比率、基本金比率、退職給与引当金特定資産保有率等は良好な水準にある。一方、設備投資に伴う基本金組入等により繰越収支差額構成比率(総資金に占める繰越収支差額の割合)は低下傾向にある。

別表 1

事業活動収支計算書

(単位：百万円)

		平成28年度	平成27年度	
科 目		金 額	金 額	
教育活動収入	学生生徒等納付金	4,044	3,956	
	手数料	115	104	
	寄付金	45	70	
	経常費等補助金	882	893	
	付随事業収入	6	3	
	雑収入	150	174	
	教育活動収入計	5,242	5,200	
事業活動支出	人件費	2,917	2,801	
	教育研究経費	1,853	1,841	
	管理経費	497	505	
	徴収不能額等	8	8	
	教育活動支出計	5,274	5,155	
教育活動収支差額		△ 33	46	
教育活動外収入	受取利息・配当金	149	178	
	その他の教育活動外収入	-	-	
	教育活動外収入計	149	178	
	教育活動外支出	借入金等利息	23	29
		その他の教育活動外支出	-	-
		教育活動外支出計	23	29
教育活動外収支差額		126	149	
経常収支差額		93	195	
特別収入	資産売却差額	288	60	
	その他の特別収入	29	25	
	特別収入計	316	85	
	特別支出	資産処分差額	11	74
		その他の特別支出	-	-
特別支出計		11	74	
特別収支差額		305	11	
基本金組入前当年度収支差額		399	206	
基本金組入額合計		△ 470	△ 829	
当年度収支差額		△ 72	△ 623	
前年度繰越収支差額		△ 2,715	△ 2,092	
翌年度繰越収支差額		△ 2,787	△ 2,715	
(参考)				
事業活動収入計		5,707	5,463	
事業活動支出計		5,308	5,257	

別表 4

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	平成28年度	平成27年度
資産の部		
固定資産	21,858	21,354
有形固定資産	18,025	18,433
特定資産	1,571	1,549
その他の固定資産	2,262	1,372
流動資産	6,274	6,528
資産の部合計	28,132	27,882
負債の部		
固定負債	2,340	2,564
流動負債	1,687	1,612
負債の部合計	4,026	4,176
純資産の部		
基本金	26,892	26,422
繰越収支差額	△ 2,787	△ 2,715
純資産の部合計	24,105	23,707
負債及び純資産の部合計	28,132	27,882

別表 2

資金収支計算書

(単位：百万円)

科 目	平成28年度	平成27年度
収入の部		
学生生徒等納付金収入	4,044	3,956
手数料収入	115	104
寄付金収入	54	70
補助金収入	898	911
資産売却収入	1,724	2,288
付随事業収入	6	3
受取利息・配当金収入	149	178
雑収入	150	173
借入金等収入	2	1
前受金収入	1,051	1,051
その他の収入	293	372
資金収入調整勘定	△ 1,173	△ 1,163
当年度資金収入合計	7,312	7,943
前年度繰越支払資金	2,712	2,998
収入の部合計	10,024	10,941
支出の部		
人件費支出	2,889	2,831
教育研究経費支出	1,206	1,208
管理経費支出	464	472
借入金等利息支出	23	29
借入金等返済支出	250	313
施設関係支出	113	540
設備関係支出	163	89
資産運用支出	2,188	2,698
その他の支出	220	168
資金支出調整勘定	△ 189	△ 118
当年度資金支出合計	7,328	8,230
翌年度繰越支払資金	2,696	2,712
支出の部合計	10,024	10,941

別表 3

活動区分資金収支計算書

(単位：百万円)

科 目	平成28年度	平成27年度
教育活動による資金収支差額	725	677
施設整備等活動による収支差額	△ 248	△ 587
その他の活動による収支差額	△ 493	△ 376
支払資金の増減額	△ 16	△ 286
前年度繰越支払資金	2,712	2,998
翌年度繰越支払資金	2,696	2,712

別表 5

主な財務比率

(%)

比 率	平成28年度	平成27年度
人件費比率	54.1	52.1
人件費依存率	72.1	70.8
教育研究経費比率	34.4	34.2
管理経費比率	9.2	9.4
事業活動収支差額比率	7.0	3.8
学生生徒等納付金比率	75.0	73.6
補助金比率	15.7	16.7
基本金組入率	8.2	15.2
固定資産構成比率	77.7	76.6
有形固定資産構成比率	64.1	66.1
特定資産構成比率	5.6	5.6
流動資産構成比率	22.3	23.4
固定負債構成比率	8.3	9.2
流動負債構成比率	6.0	5.8
総負債比率	14.3	15.0
退職給与引当特定資産保有率	100.0	100.0
内部留保資産比率	20.8	18.9
運用資産余裕比率	1.5	1.4
純資産構成比率	85.7	85.0

注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

平成29年度予算の概要

平成29年度の状況

二松學舎創立135周年を機に「長期ビジョン（N'2020 Plan）」を定め、これに基づく行動計画である「アクションプラン」を平成25年度より推進しており、平成29年度は実施5年目となる。当年度、二松學舎は創立140周年を迎え、記念式典、祝賀会ほか各種周年事業を実施する。

大学では文学部に新学科「都市文化デザイン学科」を開設する。また、国際政治経済学部にも新学科の設置準備を進める。附属柏中学校は設置7年目となる。附属柏高校との中・高を通じた教育の充実と生徒募集の強化を図り定員充足を目標とする。大学・両附属高校・中学校とも効果的な学生・生徒募集および広報活動を実施する。

キャンパス整備については、大学九段4号館建設、既存校舎の改修など大規模整備は一段落し、今後は各学校校舎の経年劣化により必要となる修繕・保守整備と各種アメニティの充実・向上を計画立てて実行する。キャンパス整備の進捗に伴い、私学事業団への借入金返済のほか校舎・グラウンドの維持管理や情報システム機器の運用・保守に係る経費など、長期に亘り多額の支出が続くことが予想される。

事業活動収支については、収入面では資産売却差額の減少により事業活動収入が減少する見込みである。また、支出面では人件費（退職給与引当金を含む）および140周年関連事業など各種特別事業の実施により経費（減価償却額を含む）が増加する見込みである。

アクションプランの各テーマに沿って大学・両附属高校・中学校の改革を推進すると共に、創立140周年を機にN'2020 Planをさらに発展させ、これからの140年のスタートに向けた長期ビジョンN'2030 Planを策定する。

創立140周年に伴う関連事業の実施により経費の増加が見込まれる。平成29年度特別事業費申請案件については厳しく査定し、経常的な経費についても見直し・削減を強力に実施する。既存事業のスクラップ・アンド・ビルドを推進するとともに、アクションプランに織り込まれていない投資は極力抑え、不採算事業項目については縮小・廃止を検討し、収支改善を図ることを平成29年度の予算編成方針とした。

平成29年度の収支状況

1. 事業活動収支予算書について（別表1）

(1) 教育活動収支について

【収入】

- ① 収入の柱である学生生徒等納付金は、41億4千3百万円となる見込みである。
- ② 手数料は、入学検定料を主として1億7百万円を見込んでいる。
- ③ 大学および両附属高等学校並びに柏中学校の経常費補助金は8億6千4百万円を見込んでいる。
- ④ 雑収入は、退職金団体からの交付金9千2百万円と併せて1億3千9百万円を見込んでいる。

【支出】

- ① 人件費は、大学および附属高校の教員増加、兼務職員の増加により29億8千3百万円となる見込みである。
- ② 教育研究経費は、施設設備の維持管理、情報システム関連経費、図書館業務のアウトソーシングほか特別事業費および減価償却額などにより、19億8千2百万円を計上している。
- ③ 管理経費は、教育研究経費と同様に施設設備の維持管理費と事務システム関連経費および減価償却額などのほか、周年記念事業の実施により、5億8千7百万円を計上している。

これにより、教育活動による収支差額は2億3千2百万円（支出超過）となる見込みである。

(2) 教育活動外収支、経常収支について

資金運用による受取利息配当金収入が1億4千5百万円、借入金利息の支払額が2千万円となり、経常収支における差額は1億7百万円（マイナス）となる見込み。（なお、このマイナスは、創立140周年記念事業の実施による一時的なものと捉えている。）

(3) 特別収支について

有価証券の売却差額として1億5千円を見込んでいる。その他の特別収入は、主に施設設備に対する助成金が2千2百万円となり、特別収支の差額は1億7千2百万円を見込んでいる。

これらにより、基本金組入前当年度収支差額は6千5百万円を見込んでいる。当年度の基本金組入額は、施設・設備の整備および教具・器具・備品の取得および借入金返済などにより4億4千4百万円を計上している。この結果、当年度収支差額は3億7千9百万円の支出超過となる見込みである。

2. 資金収支予算書について（別表2）

収入の部は、学生生徒等納付金収入、資産運用収入、退職金団体交付金を含む雑収入などにより、当年度収入額は69億2千9百万円となり、前年度繰越支払資金29億2百万円と合わせて収入額合計は98億3千1百万円となる見込みである。

支出の部は、人件費支出、教育研究経費・管理経費支出、借入金等返済支出、施設・設備関係支出等により、当年度支出額は69億6千3百万円となり、翌年度繰越支払資金は28億6千8百万円となる見込みである。

別表1 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

		平成29年度	平成28年度		
科 目		金 額	金 額		
教育活動収支	事業活動 収入	学生生徒等納付金	4,143	4,044	
		手数料	107	115	
		寄付金	70	45	
		経常費等補助金	864	882	
		付随事業収入	6	6	
		雑収入	139	150	
		教育活動収入計	5,329	5,242	
事業活動 支出	科 目	人件費	2,983	2,917	
		教育研究経費	1,982	1,853	
		管理経費	587	497	
		徴収不能額等	8	8	
		教育活動支出計	5,561	5,274	
		教育活動収支差額	△ 232	△ 33	
		教育活動外収支	事業活動 収入	受取利息・配当金	145
その他の教育活動外収入	-			-	
教育活動外収入計	145			149	
事業活動 支出	借入金等利息			20	23
	その他の教育活動外支出			-	-
	教育活動外支出計			20	23
	教育活動外収支差額			126	126
経常収支差額	△ 107	93			
特別収支	事業活動 収入	資産売却差額	150	288	
		その他の特別収入	22	29	
		特別収入計	172	316	
		事業活動 支出	資産処分差額	-	11
			その他の特別支出	-	-
			特別支出計	-	11
			特別収支差額	172	305
基本金組入前当年度収支差額	65	399			
基本金組入額合計	△ 444	△ 470			
当年度収支差額	△ 379	△ 72			
前年度繰越収支差額	△ 2,874	△ 2,715			
翌年度繰越収支差額	△ 3,253	△ 2,787			
(参考)					
事業活動収入計		5,645	5,707		
事業活動支出計		5,580	5,308		

別表2 資金収支計算書

(単位：百万円)

科 目	平成29年度	平成28年度
収入の部		
学生生徒等納付金収入	4,143	4,044
手数料収入	107	115
寄付金収入	70	54
補助金収入	883	898
資産売却収入	1,300	1,724
付随事業収入	6	6
受取利息・配当金収入	145	149
雑収入	139	150
借入金等収入	1	2
前受金収入	1,039	1,051
その他の収入	257	293
資金収入調整勘定	△ 1,161	△ 1,173
当年度資金収入合計	6,929	7,312
前年度繰越支払資金	2,902	2,712
収入の部合計	9,831	10,024
支出の部		
人件費支出	2,947	2,889
教育研究経費支出	1,311	1,206
管理経費支出	554	464
借入金等利息支出	20	23
借入金等返済支出	250	250
施設関係支出	24	113
設備関係支出	157	163
資産運用支出	1,682	2,188
その他の支出	137	220
資金支出調整勘定	△ 119	△ 189
当年度資金支出合計	6,963	7,328
翌年度繰越支払資金	2,868	2,696
支出の部合計	9,831	10,024

注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

新学科学案内(国際経営学科)

平成三十年四月、国際政治経済学部
に新たに「国際経営学科」が誕生します。
二十一世紀に入り顕著になってきたグ
ローバル化の潮流は、現在その勢いを更
に増し、社会の構造や価値観を大きく変
化させています。経済やビジネスの世界
も大きな影響を受け、国際社会の変化
に素早く対応できる企業経営の在り方が
問われる時代になっています。ビジネス
における国際的事業展開は当然となり、
企業を取り巻く外部環境の分析やそれ
に基づく行動戦略・市場戦略はますます
重要となっております。
こうした背景を受け、日本が国際社
会の経済活動をリードするために必要な
人材育成が期待されています。具体的
には、企業経営に関する理論や知識のみに
偏ることなく、広く国際政治経済事象の
知見と企業経営を巡る応用実践的な専
門知識を修得し、それらの知見を基盤と
して国際的な企業活動に生じる課題を見
極め解決する力や、ICT機器や外国語
を駆使し、国際社会を生き抜く実践的
な「創造的思考力」と社会の変化に対
応して自らのキャリアを主体的に切り開
く力を身に付けた、国際社会の発展・構
築に貢献できる人材が必要となります。
本学国際政治経済学部では、今後ま
すます進展する社会や企業経営のグロ
ーバル化に対応できるこうした人材を育成
することを目的に、これまで蓄積してき
た国際政治経済に関する知見等を基盤
としつつ、主に経営学分野、経済ビジネ
ス分野を中心的な学問分野とする「国際
経営学科」を新設することとしました。
詳しくは、本学ホームページを御覧く
ださい。

編集後記

気象の変動が続き、自然の驚異
を感じさせられます。父母会会員
の皆様いかがお過ごしですか。

定期総会には、数多くの父母の
皆様にご出席をいただきまして心
から御礼申し上げます。

総会前には、大学創立一四〇年
周年記念事業である「漱石ア
ンド」プロジェクトによる夏目
漱石先生の講演が行われました。

まさに、最先端のAI技術その
ものを目の当たりに致しました。

豊かな漱石先生の表情、身振
り、手振り、そして音声。漱石先
生本人がご登場し、ご講演下さっ
ているような光景に感動致しまし
た。

次いで、総会が行われ父母会は
南條会長以下新体制も整い新た
なる船出となりました。

四月に新入生を迎え、また、新
たに文学部に都市文化デザイン学
科も開設され、秋葉原にも大学の
活動の場が広がっております。

大学の更なる発展が大いに期待
される現況にあります。

これからも大学と共に、学生一
人一人のために尽力する父母会
でありたいと思ひ活動して参ります。
父母会の皆様、どうかご支援、
ご協力を心から宜しくお願い申し
上げます。